

関通上人と社会教化について

宮里泰司

第一章 上人の時代

社会教化、この抽象的言語の展開が、仏教流布伝播の主流をなし、特に近世仏教界の活動は二此に注がれて社会教化の理論、方法は著しい発達を見せ今日に到達している。所謂、仏陀教が仏教開創以来、三国を経て、それが我が國に伝来移植され時代の推移とともに、その伝播は眞に日本人の仏教を形成する発達段階を歩み、完全に日本化、民衆化の日本佛教の更張となつた。これは時代の感覺を巧みに取り入れた積極的な社会教化の理論方法の展開が、それが形成せしめたもので、秀れた人生の哲理を有し永きにわたつて日本文化を培つて来たのである。斯様にして、発達した日本仏教もその変遷を見るに極めて複雑であり、社会教化も亦、種々の社会に於いて困難な歩みを続けた事はいうまでもない。

而して、その一時代に着眼し、社会教化の展開を見るに、近世浄土教発達史上より、就中特に徳川時代（西一六〇三——一八六七）に於ける浄土宗の「雲外子関通上人」を中心にして、上人は、徳川時代中期に活躍を見せられたが、先ずこの時代を通じて、仏教と社会関係を

見出し、この時代の社会教化を把握して、上人研究に当る。

徳川時代は、誰くも知らざる者がないのでいうまでもないが、日本史上後期封建社会が成熟、その政治統制は、中央、地方の二大別でもって全國の政权を隈なく握る組織力を有し、その特色は將軍の独裁権の強大極まる所にあり、完全なる封建社会が形成されるに至った。斯様なる政治統制はこれまで朝廷や幕府の干渉を排していた仏教界に及び諸宗諸寺はその統制下に置かれ政治的圧力が加へる状態に表化したのである。即ち、公家及び寺社統制策として現れ諸宗諸寺院法度によつてその活動は宗教的なもの限り寺社奉行を設立してこれを管理し、而して本寺と末寺の關係をピラミッド型に構成、各寺院を檀越制度の組織化でもって庶民支配の機構として利用したのである。そして諸宗諸寺は、この整然たる法度により一規律の下に統制され、寺院と檀家の關係結合が密接になり、他國に例のない干渉係づを受ける状態となつた。このため各宗の宗学研究は、その教化の面に於て檀徒の教化に促めしめられた故に、社会教化は庶民対象として日本仏教史上最高の庶民教化を見るに至つたのである。

庶民は、仏教信仰を必然的に權えつけられ、精神生活の基盤として、深く仏教を信仰し祈禱寺院の維持は義務となり、各寺院は一應要定した寺政全済の上に活動することが出来たが、仏教本来の趣旨から見れば、種々と相異が見られる。又、この政治統制の他に室町時代の庶民文化がこの時代に入つて大きく発展向上し庶民文化の向上に伴つて仏教も庶民対象を必然的にする時代の感覺を認識せざるを得ない立場に推進されてゐた。主として、政治に左右、利用され、庶民教化の向上が見られたのであるが、これも見逃してはならない條件の一つである。

以上の如くして、徳川時代は大なる庶民教化が展開されたが、やはり別度に見出し過ぎて全体的にどこか淺薄たる生氣が抜け、前述した如く仏教の本末の趣旨を忘れ去つたことが根柢と

なり、華船渡船の時も多し。

(註) 該民教化の方法

一 説法教化。 二 教育。 三 文書教化。 四 芸術。 五 事業。 六 儀式。 以上のものがあつた。

第二章 諸伝記より見た上人の生涯

上人の社会教化を算るに先ず諸伝記を通じて上人の生涯を考察すれば。―― 今から、一八六年前、西暦一七七一(明和七年)七十五にして生涯に終止付をうたれてゐる。徳川時代(西一六〇三――一八六七)これより換算して、徳川中期に活躍した華明僧である。上人研究は最近に於けるものとして、西一九三七(昭和十二年)雲介子関通上人全集が五巻に及び、寛政されてあり、その五巻は上人の諸伝記を輯聚したもので、十種に及び伝記が見られる。かゝる伝記を照合して上人の生涯を見れば、西暦一六九六年(元禄九年)四月八日尾張国海西郡大蔵邑に於いて、鎌倉北條九代末裔横井某氏の子として誕生、幼少にして英哲なる才知を世人に見せ、出家の道を修する事六、七歳、九歳にして故郷を離れ、同郡小改井御恩徳寺の奥座に就き寺蔵生計に入り、密衆を修する仏道への第一歩を、父母又三望に帰す清衆の衆人で仏教の関心高き故に、斯如き上人の敬求を喜ばれ心よくこの敬求に応じられたのである。然し乍ら、同年上人密衆意にそむき、浄家を求めて同国海東郡中一色村浄土宗極台山西方寺の照登上人に就き浄土門に入られたのである。

而して十三歳の時、照登より剃髮受戒、元教と法号して十四歳の時、関東増上寺に齋を移し、

関通上人と教化について(宮里)

(宮里)

十五又の春、自他平等利益ある出離の要道を求めて、京學研鑽力ため、關東増上寺に至り、關と改号、十三ヶ年間に渉る修學を終え、二十六又論旨、即ち六郎となり四國流浪、二十七、八西手勢州山田洋清曉に住、二十九又長島老岳寺住臥、三十又の春靈能行業記を曉んで伊勢山田越坂惣持寺に體居し、三十一又一向專修の宏願文を書き、教化者として意業の決心の起る所を覓せ、三十二又、尾州山改寺住、享保十三年西方寺へ尾張國に移り、その時、雲外子與通と自鉢して、廻山を拝し、檢索節量、忍辱逆悲身をもつて、生靈弘濟、京都へ北野^{最勝寺}轉輪寺を中心し、玄範に及び、九州、伊セ、大和、近江、三河に於いて社会教化を展開、この間、捨世の決心を起され、諸國を行脚するに四十八年間、寺院建立開創十六ヶ寺、金陽百余个所を救えて、得度^{トクダツ}の僧尼千五百人、受戒したもの三千余人に及び、日蓮誓約力男女千万余人にさ出ている。

かゝる偉大な教化への道は、嗚呼七十五次に至るまで、一宗祖の真徳を明さんと展南さん、仏敎に崇敬する争ひまじく、大衆の中に生き、一般伝道家と類異する所が多く、偉大なる社会教化一筋の生涯であつた。

〔註〕
關通の語伝記

- 一、向營上人行水冊書十三卷。二、向營上人行狀拔往生記冊書一卷。三、向營上人行狀記、四、向營上人行業記一卷。五、向通上人行狀拔往生冊書一卷。六、向通老故韓師略位一卷、七、向通上人位一卷。八、向通上人行業記。九、向通上人行業記上中下卷。十、向通上人給河。

奥通の社会教化は天誨明教で捨世主義であり、習得せられた京東學は深く法戒をもつて、諸国を行脚、勇猛極る念仏の実行者として、社会教化を展開したのであり、徳川中期の説法教化の盛んな時であつた。

然るに奥通の教化理論は、京祖の教化理論に等しく即ち、京祖の真意を唯一義として、往生極楽の一端を勸諭、此の世（現世）は全く穢土とし現世を塵穢穢捨の念を生起させることをその根本理論とする。念仏勸化論で總持する京祖立場を堅持するものであつた。かゝる京祖本位の理論は、三十部八十余巻の著述でもって明確にしてあり、その中「本懷念仏勸化本義」に於いて奥通の教化理論が明確に大系づけられている。それは

一、大師の正意を明すに大別して

(イ) 隨自意 (ロ) 隨他意

二、世の謠説を辨じ

(イ) 新譯念仏否定論 (ロ) 紛擾と辨示して正意を述べらる

三、通別の取に約して宗旨を全うする。

斯如く、三大別して居り、いづれも京祖の意を明さんとするもので、二は當時祖意が謬つて教化されるを認めて、布教家に注告したもので、奥通の教化理論といえる。

然るに奥通のこの教化理論が如何に展開されたか、それは奥通三十一歳の時に一向専修の誓願文を記した。この時の布教誓願によつて端を免し、自己の信仰の確立が社会教化の第一手段

奥通上人と社会教化について（宮里）

開通上人と社会教化について（宮里）

とされ、即ち教化方法の才一意とされたのである。今、開通の教化方法を大別するに

一、説法教化

(1) 法語形式 (2) 辯詰形式

二、文書教化

三、取儀布教

と、三大別の教化方法が窺われる。

一、説法教化は一定の規模により、法語毎に日課念仏を勧め、必ず印信として手書きの名号を授与された。説法の日は午前より絶対に面会人を謝絶、説法準備に忙しき所、説法内容は如何に衆生を化導するか、その任務の重大性に善眼席に熱心極る誰人にも理解し得る法談形成が窺われた。

二、文書教化に於いては、撰訳集や教祖の宗典を漢文から和文に書きかえた、革新的方法は注目すべき開通の教化方法で浄土宗意を一層明確にしている。

三、取儀布教は、開通の布教人格が実に宗祖に等しく現今に見られないものがある。

以上、簡略であるが、開通の社会教化の理論とその方法は、現在にでも適するもので、革新的な方法でもって宗意を明し、浄土宗の怨嘆に忘れられない功績を残し、自らの信仰の大きな力を基盤として、宗祖の正意を庶民に把握させ、正確なる念仏慈悲展開の四十八年間が数多の衆生清度し、今日に及ぶのである。

(註) 閑通の著書

一枚起請文模範圖書三卷

淨土宗要略鈔總錄附心行雜三卷

本願念仏勸化本教一卷

勝乃知誠三卷 緣夢乃知誠三卷

懷素二卷

變遷任隨七卷

後世のつと一卷

唯余本願抄文讀説一卷

唯命本願抄孟宗谷討論三卷

唯命本願三心備論七卷

和字模範集二卷

模範集要文書一卷

宗略大要義

淨土四願教義

四戒念仏討論

持戒論附錄

托事辭

淨業社規

説法聽聞五十徳

法語

その他教種